

[成果情報名] 輪ギクのビジネス（企業的）経営体への段階的発展モデルの策定

[要約] 静岡県西部地域の輪ギク栽培農家がビジネス経営体を目指すには、年間作付け回数を年2回から年3回に増やして徐々に規模拡大していく方法と、空きハウスを借りてまず面積拡大をはかり、その後ハウスの装備を充実させて、高回転を導入していく2つの方法が考えられる。

[キーワード] 花き経営、輪ギク、大規模経営

[担当] 静岡農林研・企画経営部・経営研究

[代表連絡先] 電話 0538-36-1553

[区分] 関東東海北陸農業・経営

[分類] 技術・参考

[背景・ねらい]

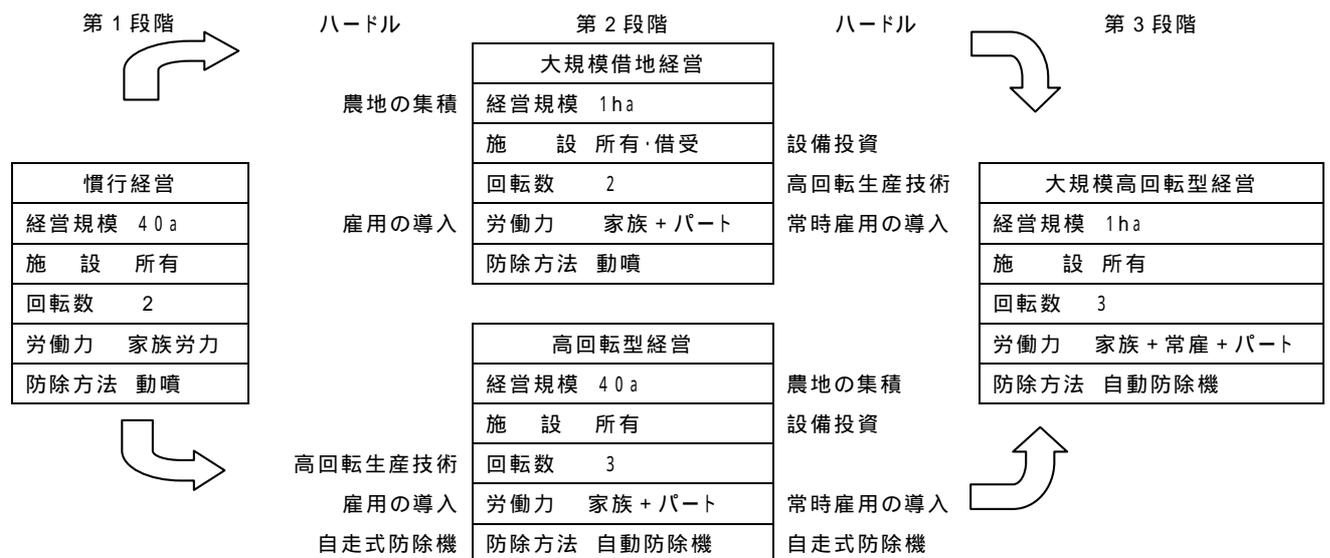
静岡県は全国有数の花き産地であり、その中でもキクは産出額及び農家数が最も多い。産地の中心となるべき経営体を育成するため、段階的な発展モデルを作成し、生産者の指標とするとともに、行政・試験研究が果たすべき役割を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 静岡県西部の輪ギク生産者に対するアンケート調査の結果、平均経営面積は44a、平均年間作付け回数は年2作であり、家族労力が主体であった。そこで、慣行経営を経営面積44a、年間作付け回数2回、労働力は家族2人に設定した。
2. 慣行経営を基準に、年間作付け回数について、愛知県や福岡県等の主産地で一般的な年3回とした高回転型経営の試算をすると、生産量の増加で収穫時に雇用の導入が必要になるが、粗収益、農業所得とも約1.5倍に増加する。
3. 近年、高齢化により、キク生産を断念する生産者も多く、空きハウスが増加している。そこで、その空きハウスを借りて、年2作の大規模借地経営を行うと、1haで、所得8466千円を確保できる。
4. 大規模借地経営の場合、古いハウスでは年3作は難しいが、ハウスを新設して装備を充実させ、年3作の大規模高回転型経営に移行すれば、75600千円の粗収益をあげることができ、利潤も発生する。高回転型経営から規模拡大をしていくことにより、大規模高回転型経営に到達する展開も考えられる。
5. 年2作の経営から高回転型経営に移行するには、設備投資をする必要があり、行政機関としては補助事業や制度資金での支援を検討する必要がある。また、試験研究機関は、低コストハウスの研究と栽培期間の短い品種の選抜を行う必要がある。
6. 農地の集積に関しては、行政として、農業団体と連携した空きハウスの利用調整や、貸借期間の長期化に向けた支援措置の検討が必要である。

[成果の活用面・留意点]

1. 収穫調製作業については、パッキングセンターの利用を前提とした。



前提条件:育苗施設無し・購入苗・無摘心栽培・PC利用

第1図 キク経営段階的發展模式図

第1表 キク段階的發展モデル

経営型	慣行栽培	高回转型経営	大規模借地経営	大規模高回转型経営
経営面積(うち自作地)	40a(40a)	40a(40a)	100a(40a)	100a(40a)
作付け回数	年2作	年3作	年2作	年3作
労働力	家族2人	家族2人、パート1人	家族2人、パート4人	家族2人、常雇1人、パート5人
主な資本装備	丸型ハウス×4棟 温風暖房機×4台 トラクター16ps×1台 トラック1t×1台 動力噴霧器中型×1台	丸型ハウス×4棟 温風暖房機×4台 トラクター16ps×1台 トラック1t×1台 動力噴霧器中型×1台 自動防除機×4台	丸型ハウス×4棟 温風暖房機×4台 トラクター16ps×1台 トラック1t×1台 動力噴霧器中型×1台	丸型ハウス×10棟 温風暖房機×10台 トラクター16ps×1台 トラック1t×1台 動力噴霧器中型×1台 自動防除機×10台
粗収益(千円)		20,160	30,240	50,400
経営費(千円)		15,789	23,846	41,934
農業所得(千円)		4,371	6,394	8,466
総労働時間(時間)		3866.8	9667.0	4906.0
生産費(千円)		23,266	31,743	49,923
利潤(千円)		-3,106	-1,503	477

1) 輪ギクのケース単価7,000円、パートの時給850円、常時雇用及び家族労働の時給は1,800円で計算した。

2) 重油代は100円/ℓ、ガソリン代は170円/ℓとし、生産資材については、平成19年12月時点での価格を参考にした。

[その他]

研究課題名:花き経営の段階的發展モデルの作成

課題ID:

予算区分: 県単

研究期間: 2005~2007年度

研究担当者: 鈴木康詞

発表論文等: